

一六月三十日付堀部久勝宛大東義徹書簡一

梅雨御同困扱在彦中ハ  
失敬ヲ相働御海怒可被下候  
昨廿九日午船ヨリ出津即  
刻県令相訪候処本日ハ公用  
多忙迎モ緩々御物語致シ  
兼候ニ付明朝参リ呉候様との  
事ニ付則今晚相訪兼テ御  
協議之通り夫々順序ヲ以テ談  
判結局彦根学校還付  
の義申談候処県令ニ於ても諸  
有志奮励之美挙ヲ称シ  
願望ノ要領ハ至極好都合  
合ニ御座候然ル処県令之考案  
ニ拠レハ猶一步ヲ進メ地方ヲ益  
スルノ妙考アルアツテ其事柄ハ矢  
張学事振張ノ点ニシテ其概略  
ヲ陳スレハ当時ノ彦根中学校  
ヲ公立或ハ共立の性質ニシテ  
土地人民ノ負担トナスナラハ本  
年県会決議之補助金ハ当  
時小濱ト彦根ノ外中学名義の  
もの無之候間格別人力ヲ勞セ  
スシテ立派ノ中学校ヲ設  
立スルニ至ル可ク然而シテ教則及  
今日内談ノ義自分一己之  
意見ヲ以テ即答致シ置候テ他日  
御異約ニ類似スル如キアツテハ不  
相濟義ニ付篤ト書記官トモ

相談ノ上三五日ヲ経テ御返答可  
致候との事ニ付少子ハ一先ツ阪地  
へ出向致し猶四五日中再ひ  
帰津可致候依テ考フルニ将来  
多少県令へ対し談判ノ都合  
ヲ要スル事之レハ補助金ヲ要スルニ至可有之  
ニ付右県令ノ確義ヲ執ル旁  
甚御苦勞ニ候得共少生出津ノ  
日限相定候節ハ大阪ヨリ電報  
可致候間一寸御出県被下県令ニモ御同  
席ニテ御打合致シ置候方将来  
何分敷之便法ト相考候ニ付敢  
テ一顧ヲ煩シ申候必ス老台ヲ  
煩ハス事ノ限ニも無之事トハ相考候  
得共御承知之卑屈人種中  
ヨリ出県者ヲ撰ムヨリ寧口老兄  
御苦勞被下候方内外之都合ト相候  
考候ニ付曲テ此段申上候少しトモ  
或ハ難去事故等ニテ其義不  
相叶候節ハ相応之委員一名  
御撰定御照会之節ハ速ニ出津  
相成候様予メ御打合置可被下候  
其後も追々実地相運候事ト  
推測何分御尽力ヲ以テ奮起  
ノ結果之レ希望ノ外無御座候時ニハ  
不順ニ□し金子□之□□大  
津袋町同大小ト御導被下度御  
出津余人ニ□へ御返声ヲ煩ス  
一銀行派ヨリ托セラレタル親睦  
会ヲ商法会議所ニ転スルの

意見モ俄ニ果令ニ打合セ置申候  
土地之有志追々振起の萌  
シアルハ自分ニ於テモ満足の事  
ニ付可相丈之心配ハ可致との事ニ候間  
一寸御報道可被下、余拝青  
之期し要点如斯

六月卅日 大東

堀部老台

別段外口へ文通不致

候間老幣ヨリ御返声

可被下自分大阪へ伺御用

御座候左ニ

大阪小濱衆同札番

田部密方

一六月三十日付堀部久勝宛大東義徹書簡一

梅雨御同困、扱在彦中ハ失敬ヲ相働御海怒可  
被下候、昨廿九日午船ヨリ出津、即刻県令相  
訪候処本日ハ公用多忙、迎モ緩々御物語致シ  
兼候ニ付、明朝参リ呉候様との事ニ付、則今  
晚相訪、兼テ御協議之通リ夫々順序ヲ以テ談  
判、結局彦根学校還付の義申談候処、願望ノ要領  
於テも諸有志奮励之美譽ヲ称シ、願望ノ要領  
ハ至極好都合ニ御座候、然ル処県令之考案ニ  
拠レハ猶一步ヲ進メ、地方ヲ益スルノ妙考ア  
ルアツテ、其事柄ハ矢張學事振張ノ点ニシテ  
其概略ヲ陳スレハ、当時彦根中学校ヲ公立  
或ハ共立の性質ニシテ、土地人民ノ負担トナ  
スナラハ本年県会決議之補助金ハ當時小濱ト  
彦根ノ外中学名義のもの無之候間、格別人力  
ヲ勞セスシテ立派ノ中学校ヲ設立スルニ至ル  
可ク、然而シテ教則及今日内談ノ義自分一己  
之意見ヲ以テ即答致シ置候テ、他日御異約ニ  
類似スル如キアツテハ不相濟義ニ付、篤ト書  
記官トモ相談ノ上、三五日ヲ経テ御返答可致  
候との事ニ付、少子ハ一先ツ阪地へ出向致し、  
猶四五日中再び帰津可致候、依テ考フルニ、  
将来多少県令へ対し談判ノ都合ヲ要スル事

之レハ種々難シキ事ニモ可有之ニ付、右県令ノ確

義ヲ執ル旁甚御苦勞ニ候得共、少生出津ノ日  
限相定候節ハ大阪ヨリ電報可致候間、一寸御  
出県被下、県令ニモ御同席ニテ御打合せ致シ置  
候方、将来何分敷之便法ト相考候ハ事ノ限ニ  
一顧ヲ煩シ申候、必ス老台ヲ煩ハス事ノ限ニ  
も無之事トハ相考候得共、御承知之卑屈人種  
中ヨリ出県者ヲ撰ムヨリ、寧ろ老兄御苦勞被  
下候方、内外之都合ト相候考候ニ付、曲テ此  
段申上候、内少しトモ或ハ難去事故等ニテ其義

不相叶候節ハ、相応之委員一名御撰定、御照  
會之節ハ速ニ出津相成候様、予メ御打合、置可  
被下候、其後も追々実地相運、候事ト推測、何  
分御尽力ヲ以テ奮起ノ結果、金子之レ希望ノ外無  
御座候時ニハ、不順ニ口し、金子之レ口口口大  
津袋町同大小ト御導被下度、御出津余人ニ口口  
へ御返声ヲ煩スト、一銀行派ヨリ托セラレタル  
親睦會ヲ商法會議、所ニ転スルの意見モ俄ニ県  
令ニ打合せ置申候、土地之有志々振起の萌  
シアルハ自分ニ於テモ満足の有追付、振起可相丈  
之心配ハ可致との事ニ候間、の事ニ寸御報、道可被  
下、余拝青之期し要点如斯、一事ニ寸御報、道可被  
六月卅日大東

別段外口へ文通不致候間、老幣ヨリ御返声  
可被下、自分大阪へ伺御用御座候、左ニ

大阪小濱衆同札番  
田部密方

凡例

- 一、旧字体・異体字・略字・俗字等は、原則として新字体・正字に改めた。
- 二、変体仮名・合字等は、通常使用されてい  
る平仮名に改めた。
- 三、翻刻者による注記は「      」で示した。
- 四、虫損箇所及び判読できなかった箇所につ  
いては□もしくはは文字数が不明不明な  
場合は「      」で示した。

翻刻担当者名・所属

杉浦由香里（滋賀県立大学人間文化学部）

山下廉太郎（朝日大学教職課程センター）